

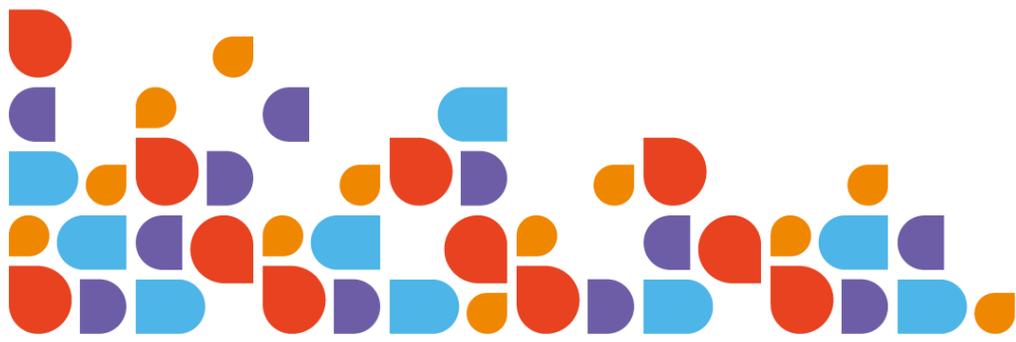
# 2023年2月期（2022年度） 第2四半期 決算補足資料

イノベーションとコミュニケーションで  
社会の豊かさを支える

株式会社ベルシステム24ホールディングス

2022年10月12日

証券コード：6183



- 売上収益は782.9億円、営業利益81.8億円、四半期利益52.3億円と前年同期比で着実に増加
- 特に営業利益は、前年同期比+13.6%と大きく増加

連結業績	売上収益	782.9億円	前年同期比	+7.1%
	営業利益	81.8億円	前年同期比	+13.6%
	親会社の所有者に 帰属する四半期利益	52.3億円	前年同期比	+6.2%

# 2023年2月期（2022年度）第2四半期 決算概要

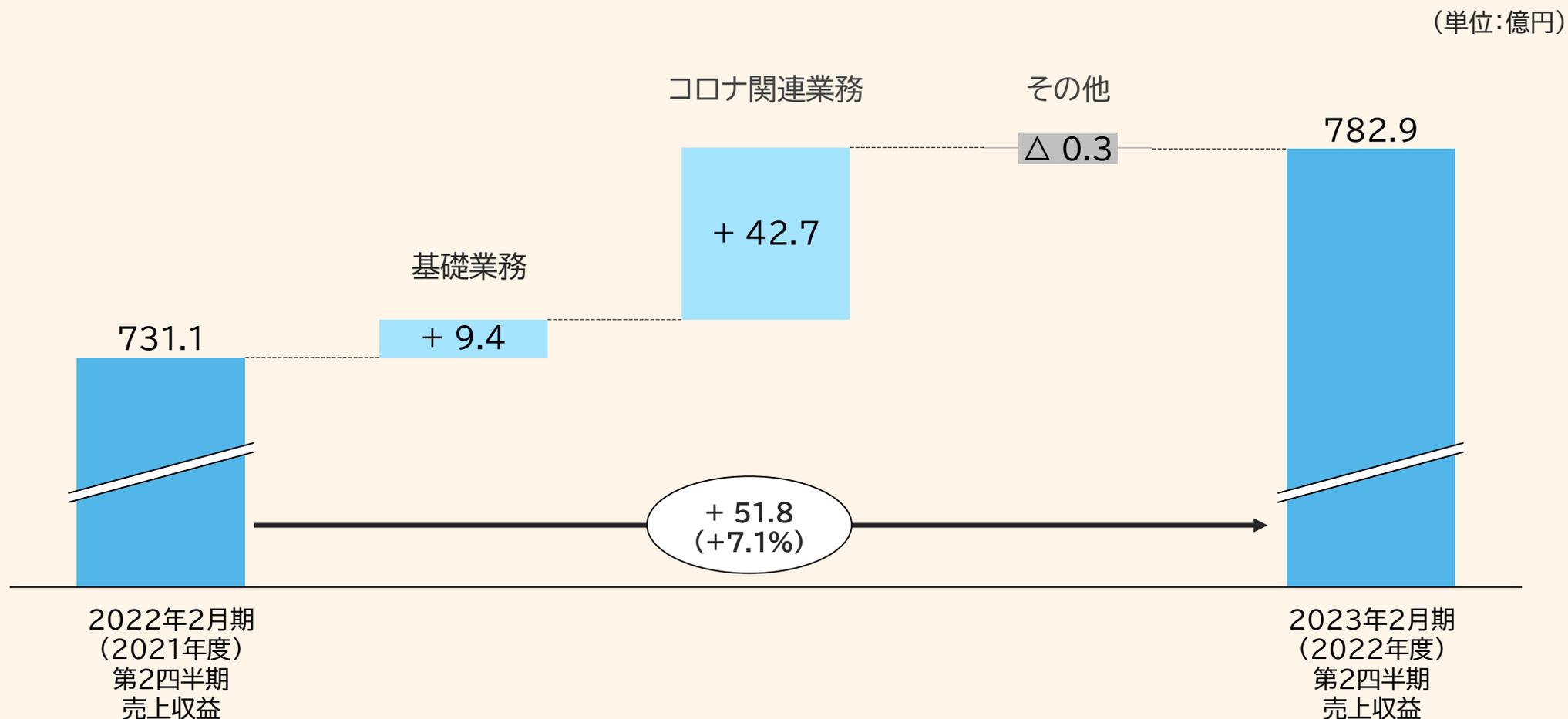
- 基礎業務は前年同期比+9.4億円(+1.5%)と想定通りの着実な増加
- コロナ関連業務は前年同期比+42.7億円(+51.2%)の大幅増加
- 連結業績予想に対する進捗率は売上収益、営業利益、四半期利益ともに50%以上と順調な進捗

(単位:億円)

	2022年2月期 (2021年度) 第2四半期	2023年2月期 (2022年度) 第2四半期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	連結業績予想	進捗率
売上収益	731.1	<b>782.9</b>	+ 51.8	+ 7.1%	1,480.0	52.9%
内、基礎業務	642.5	<b>651.9</b>	+ 9.4	+ 1.5%	1,331.0	49.0%
内、コロナ関連業務	83.5	<b>126.2</b>	+ 42.7	+ 51.2%	140.0	90.1%
内、その他	5.1	<b>4.8</b>	△0.3	△5.7%	9.0	53.6%
営業利益	72.0	<b>81.8</b>	+ 9.8	+ 13.6%	140.0	58.5%
営業利益率	9.8%	10.5%			9.5%	
親会社の所有者に帰属する四半期利益	49.2	<b>52.3</b>	+ 3.1	+ 6.2%	92.0	56.8%

# 2023年2月期（2022年度）第2四半期 売上収益の増減分析

- 売上収益は782.9億円で、前年同期比+51.8億円(+7.1%)の増加
- 基礎業務は人材・教育関連業務、Eコマース・通販業務等の非対面関連業務、キャッシュレス決済関連業務が拡大したことから、前年同期比+9.4億円(+1.5%)と第1四半期の減少から増加に転換
- コロナ関連業務はワクチン・給付金対応業務を中心に、前年同期比+42.7億円(+51.2%)と大幅に増加



## 【人材・教育関連業務】

2020年のコロナ感染拡大時に、一時的に悪化した採用・雇用環境がその後徐々に改善、またコロナ禍での人材の流動化の動きも広がり、2021年度以降は増加傾向

## 【非対面関連業務】

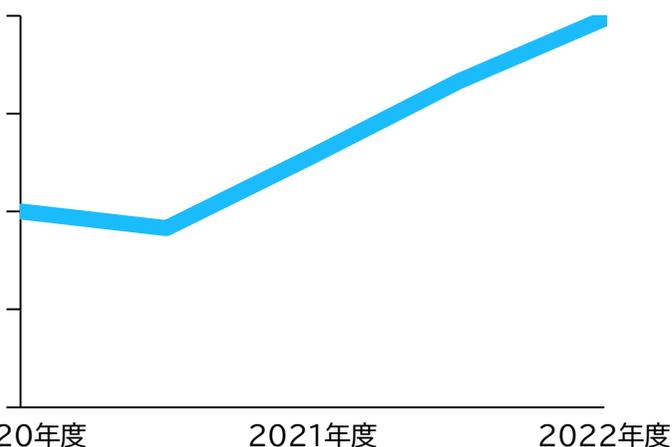
Eコマース関連業務、デリバリー等関連業務、通販関連業務等は、コロナ禍での非対面サービスが消費者から好まれる中、その利便性が一層認識され、毎年着実に増加

## 【キャッシュレス決済関連業務】

QRコード決済の普及拡大を目指した各社の販促キャンペーン等が一巡し、2020年度以降、徐々に業務が減少したものの、クレジットカード、電子マネー、QR決済等のキャッシュレス決済への潜在的な社会需要は根強く、今年度に入り堅調に推移

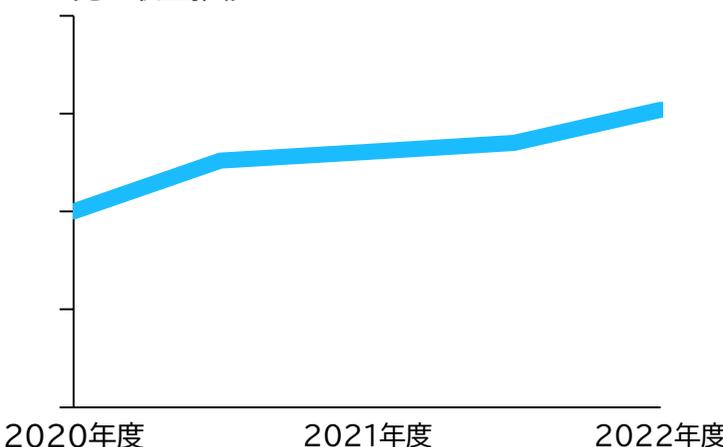
### 人材・教育関連業務

売上収益推移



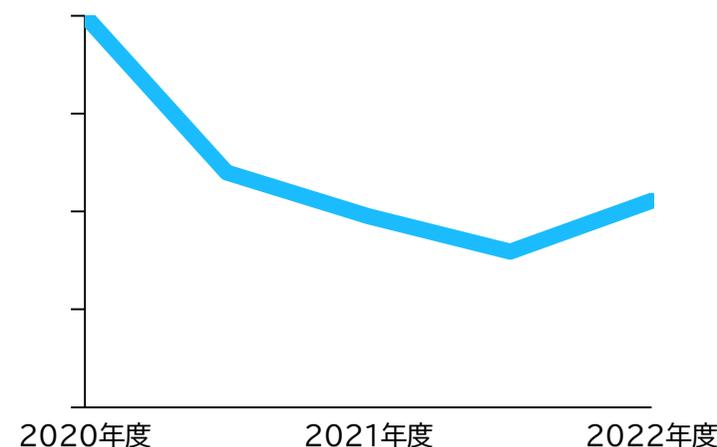
### 非対面関連業務

売上収益推移



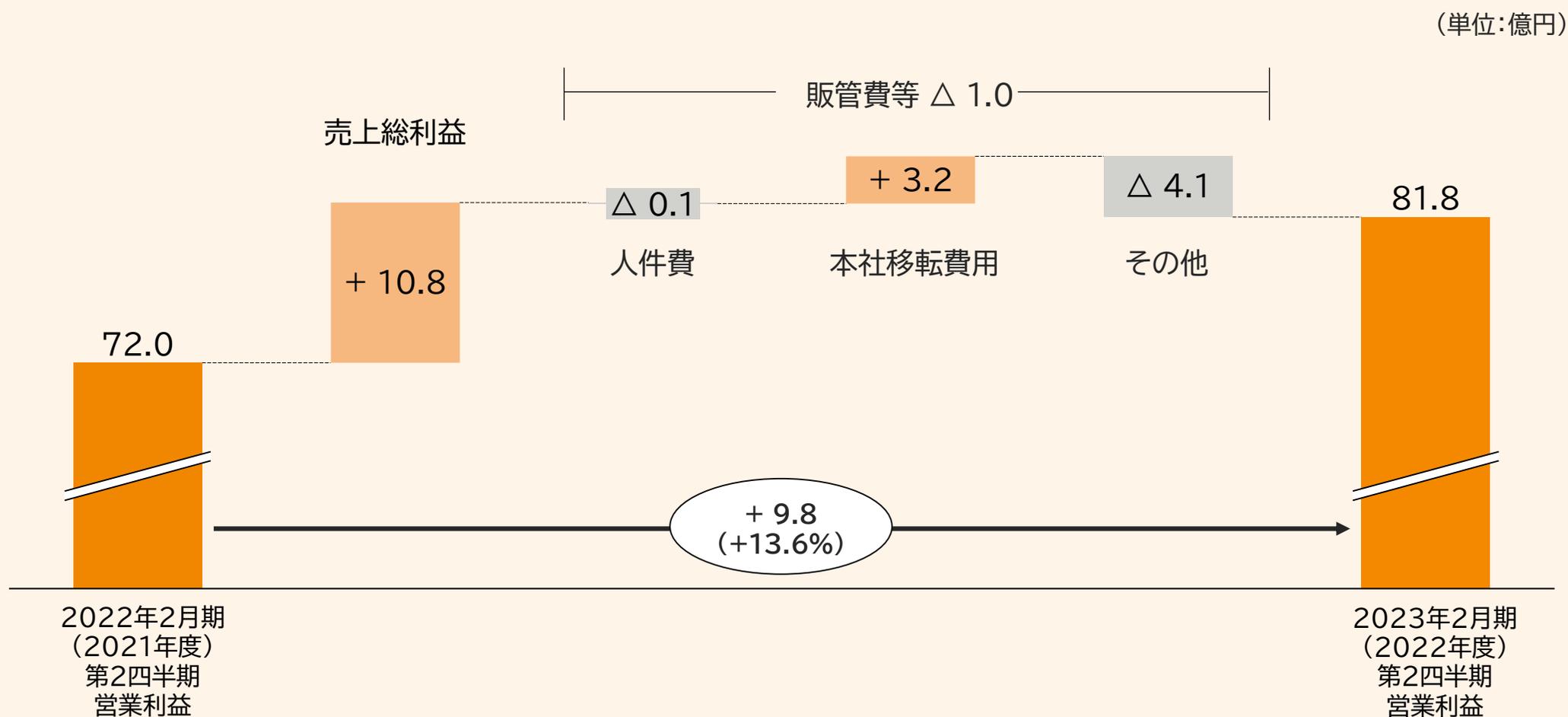
### キャッシュレス決済関連業務

売上収益推移



# 2023年2月期（2022年度）第2四半期 営業利益の増減分析

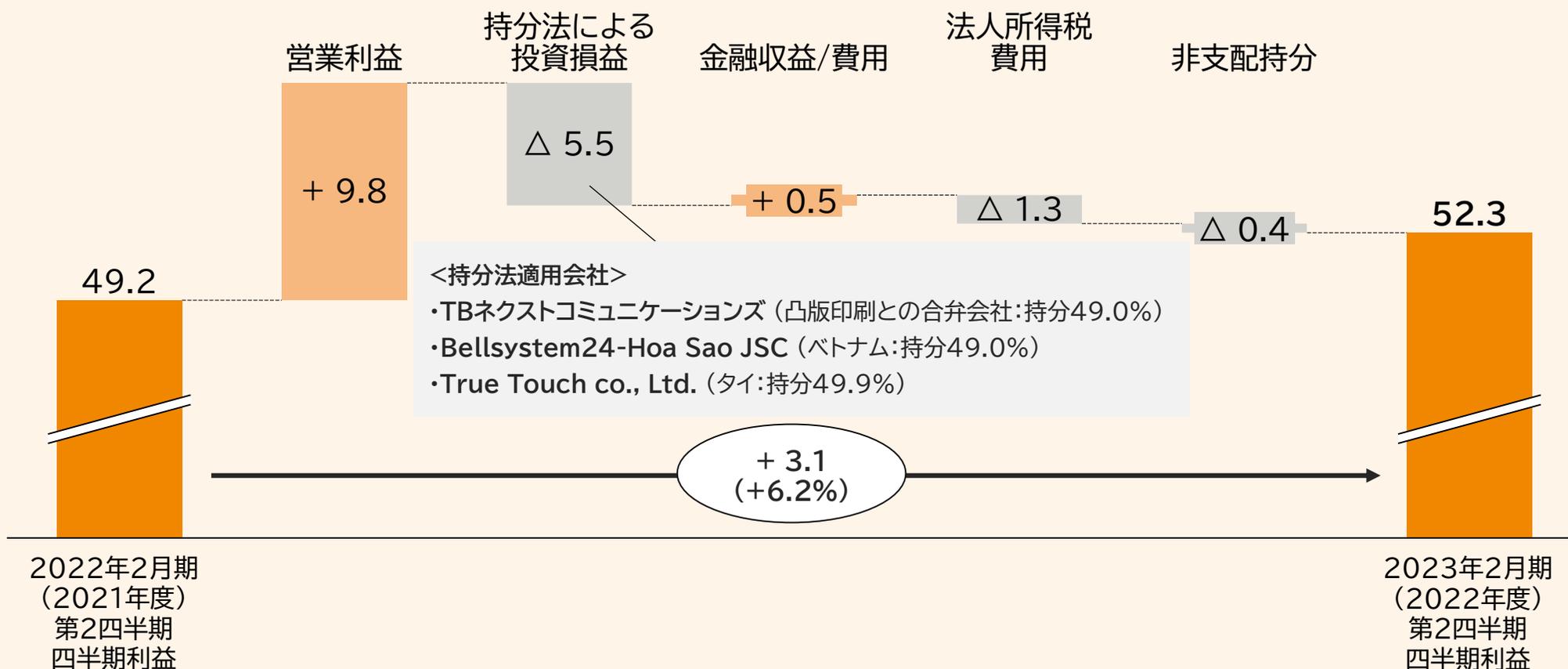
- 営業利益は81.8億円で、前年同期比+9.8億円(+13.6%)の増加
- 基礎業務、コロナ関連業務の増収効果により、売上総利益は前年同期比+10.8億円の増加
- 販管費等は、人件費の増加0.1億円、広告宣伝費、ITシステム費用等の増加4.1億円はあったものの、前年に発生した本社移転関連費用3.2億円の減少により、合計では前年同期比△1.0億円の減益要因



# 2023年2月期（2022年度）第2四半期 四半期利益の増減分析

- 四半期利益は52.3億円で、営業利益の増加を背景に前年同期比+3.1億円(+6.2%)の増加
- 持分法による投資損益は、主に(株)TBネクストコミュニケーションズのコロナ関連業務縮小、及びタイのTrue Touch社では、同社の主要株主True社からの前年末における大型業務移管に伴う運営コスト負担増の影響により、前年同期比△5.5億円の減少

(単位:億円)



※ 四半期利益＝親会社の所有者に帰属する四半期利益

# 2023年2月期（2022年度）第2四半期 連結財政状態計算書

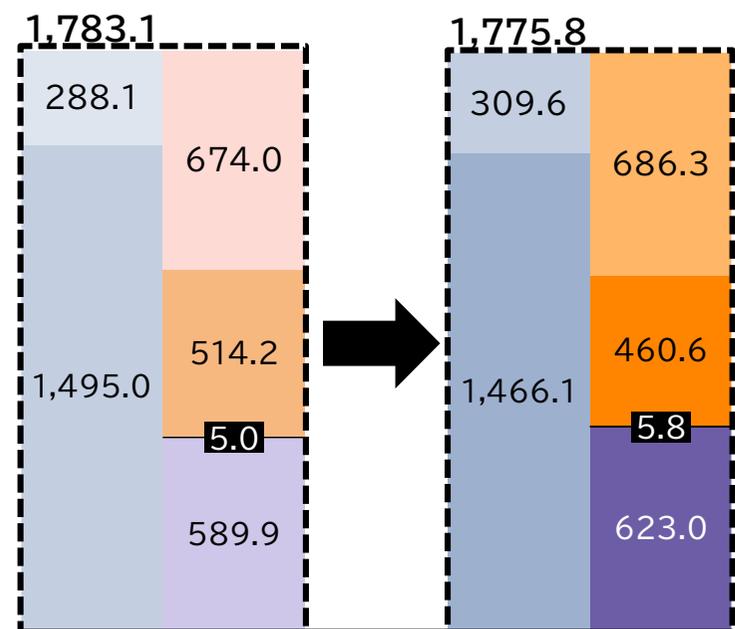
- 当第2四半期末現在の株主資本は、前年度末589.9億円から623.0億円と+33.1億円の増加
- 株主資本比率は前年度末比+2.0%上昇して35.1%
- ネット有利子負債残高は、前年度末532.5億円から485.7億円と△46.8億円の減少、Net DERは0.78倍に改善

## 連結財政状態計算書の概要

(単位:億円)

<2022年2月末>

<2022年8月末>



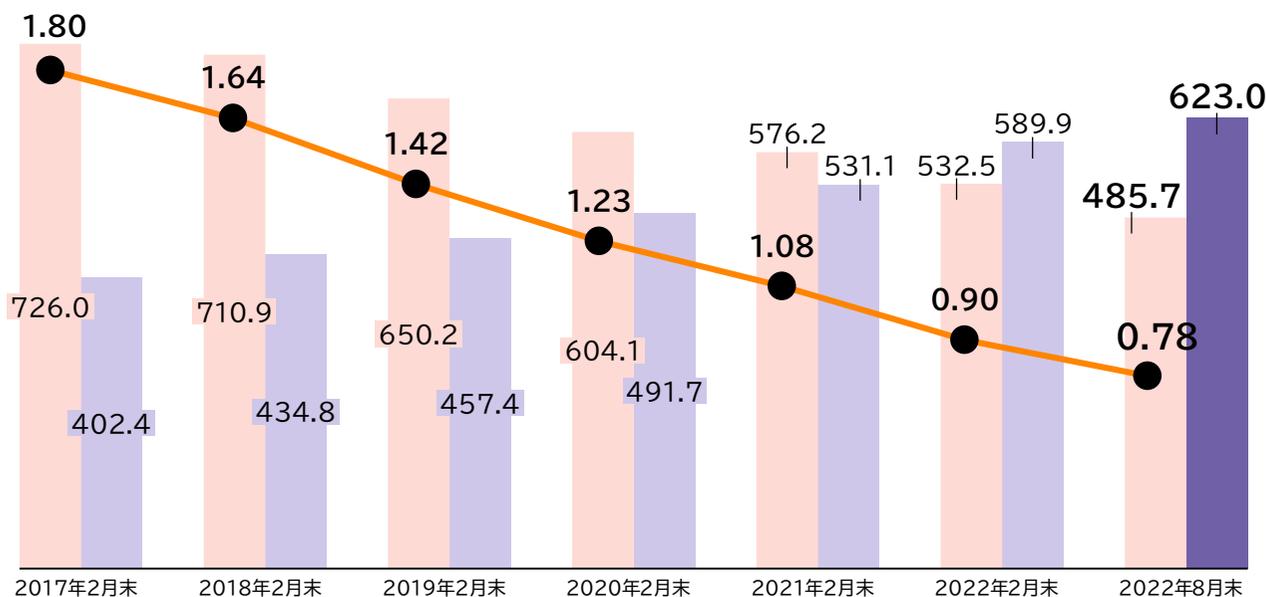
株主資本比率 33.1%

株主資本比率 35.1%

■ 流動資産    ■ 流動負債    ■ 非支配持分  
■ 非流動資産    ■ 非流動負債    ■ 株主資本

## Net DER等の推移

(単位:億円)



■ ネット有利子負債  
■ 株主資本  
● Net DER

※ 株主資本=親会社の所有者に帰属する持分

- **フリーキャッシュ・フローは、102.1億円の収入**  
 フリーキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フロー96.8億円に加え、投資活動によるキャッシュ・フローが投資有価証券の売却もあり5.2億円の収入となったことから、102.1億円と大幅に増加
- **投資活動によるキャッシュ・フロー**
  - ・ 設備投資となる有形・無形資産の取得による支出は▲9.3億円
  - ・ 事業投資となる有価証券の取得による支出は▲0.5億円、有価証券の売却による収入は+14.4億円で、医薬関連の株式売却によるもの

## 連結キャッシュ・フロー計算書の概要

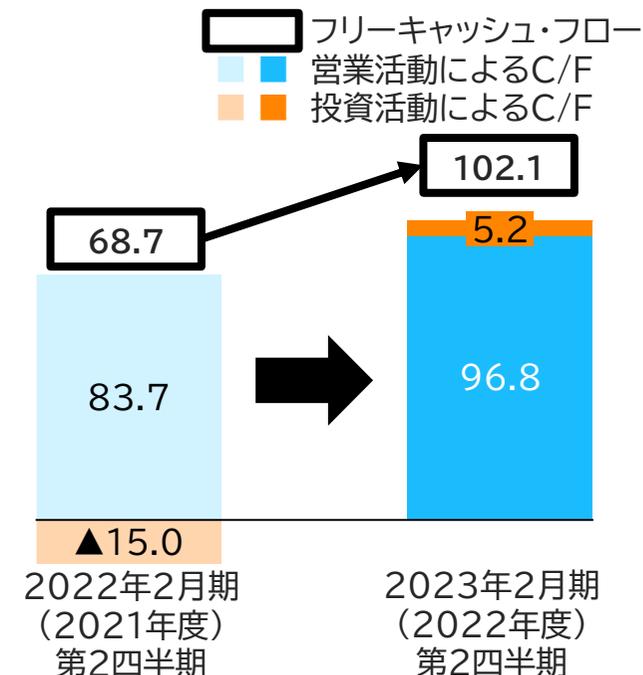
(単位:億円)

	2022年2月期 (2021年度) 第2四半期	2023年2月期 (2022年度) 第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	83.7	96.8
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲15.0	5.2
内、有形・無形資産の取得による支出	▲14.2	▲9.3
内、有価証券の取得による支出	▲1.0	▲0.5
内、有価証券の売却による収入	-	14.4
<b>フリーキャッシュ・フロー</b>	<b>68.7</b>	<b>102.1</b>

※ フリーキャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー

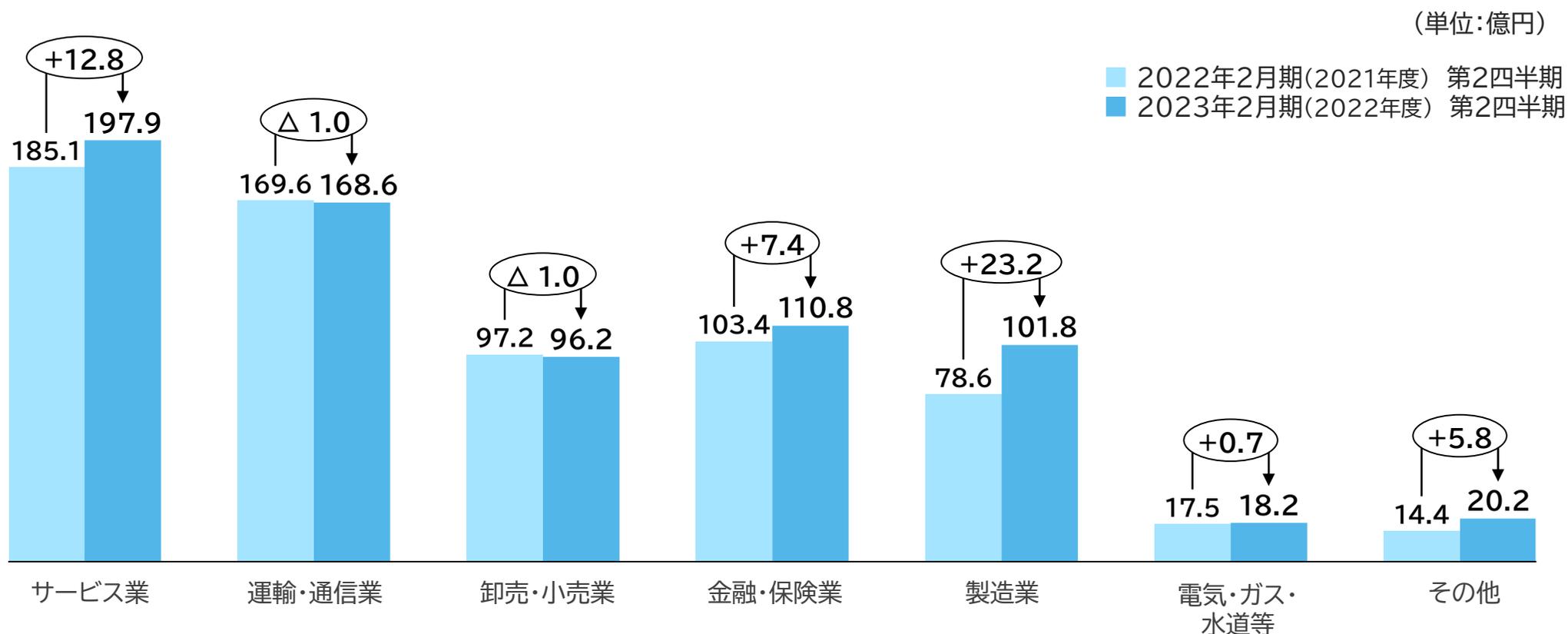
## フリーキャッシュ・フローの推移

(単位:億円)



# 2023年2月期（2022年度）第2四半期 業種別売上収益

- 「サービス業」は、人材・教育関連業務、Eコマース等の業務拡大を中心に+12.8億円の増加
- 「金融・保険業」は、保険関連、キャッシュレス決済関連の業務拡大等により+7.4億円の増加
- 「製造業」、「その他」は、主にコロナ関連業務の拡大によりそれぞれ+23.2億円、+5.8億円の増加



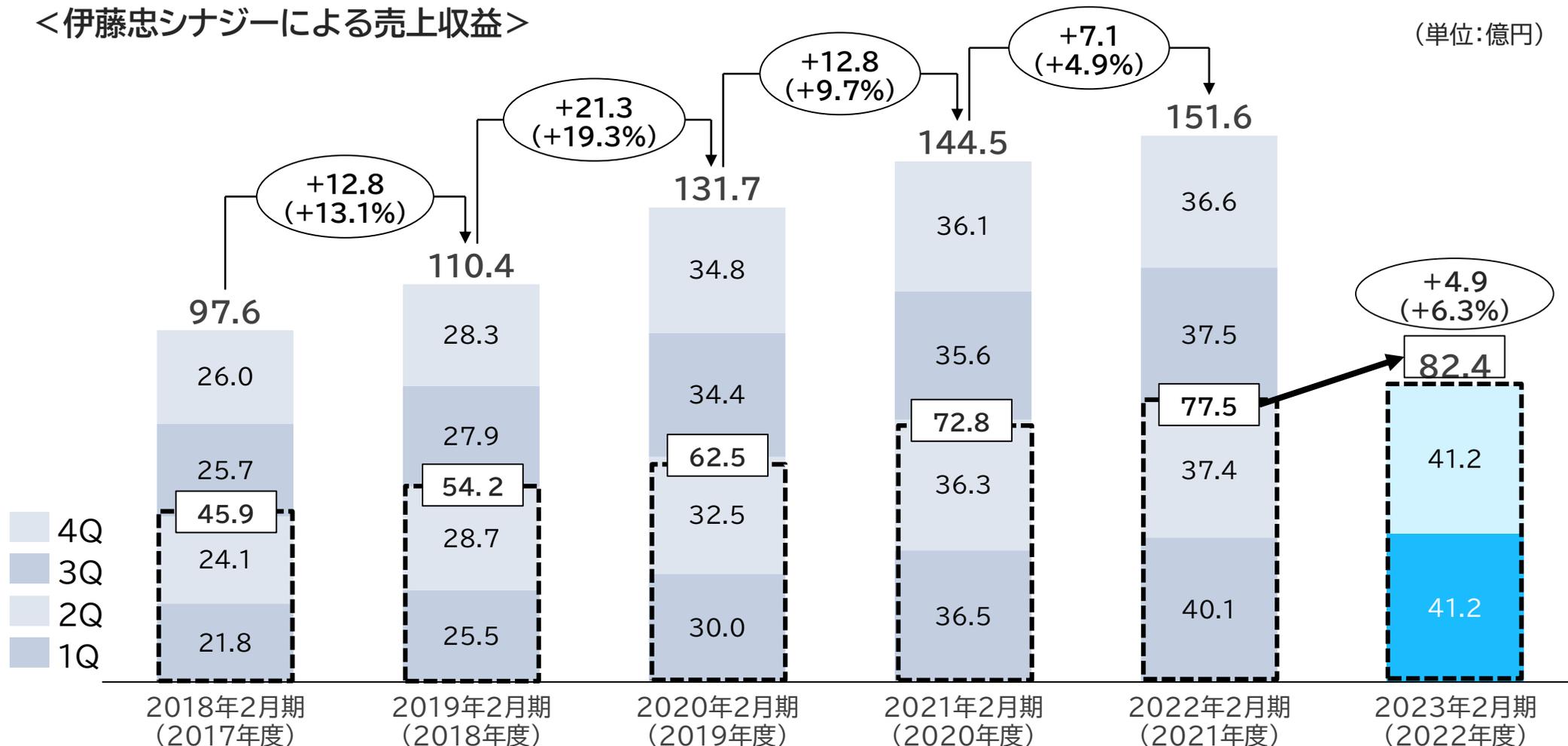
※ (株)ベルシステム24単体の売上収益上位300社が対象

# 2023年2月期（2022年度）第2四半期 伊藤忠シナジー

- 伊藤忠シナジーの売上収益は、82.4億円(前年同期比+6.3%)と前年同期比で増加を継続
- 前年同期比増加は、主にキャッシュレス決済関連業務、非対面関連業務の増加による

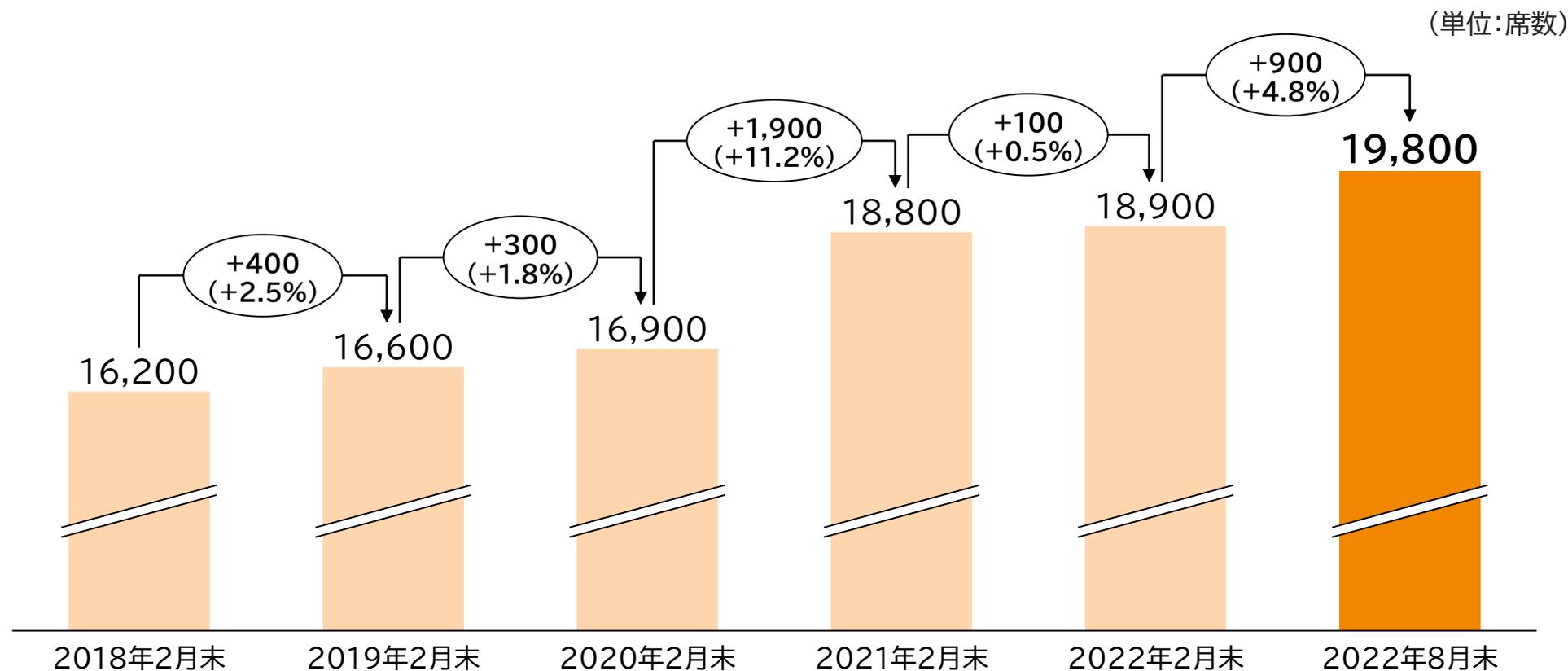
## <伊藤忠シナジーによる売上収益>

(単位:億円)



# 2023年2月期（2022年度）第2四半期 拠点ブース数の状況

- 首都圏エリアに池袋第3ソリューションセンター、九州エリアに福岡第6ソリューションセンターの2拠点を新たに開設
- 2022年8月末の国内拠点は39拠点、ブース数は19,800席(前年度末比で約900席増加)
- 基礎業務の拡大タイミングを見据え、新規・既存センターの構築、拡張等によるブース確保に引き続き取り組む予定

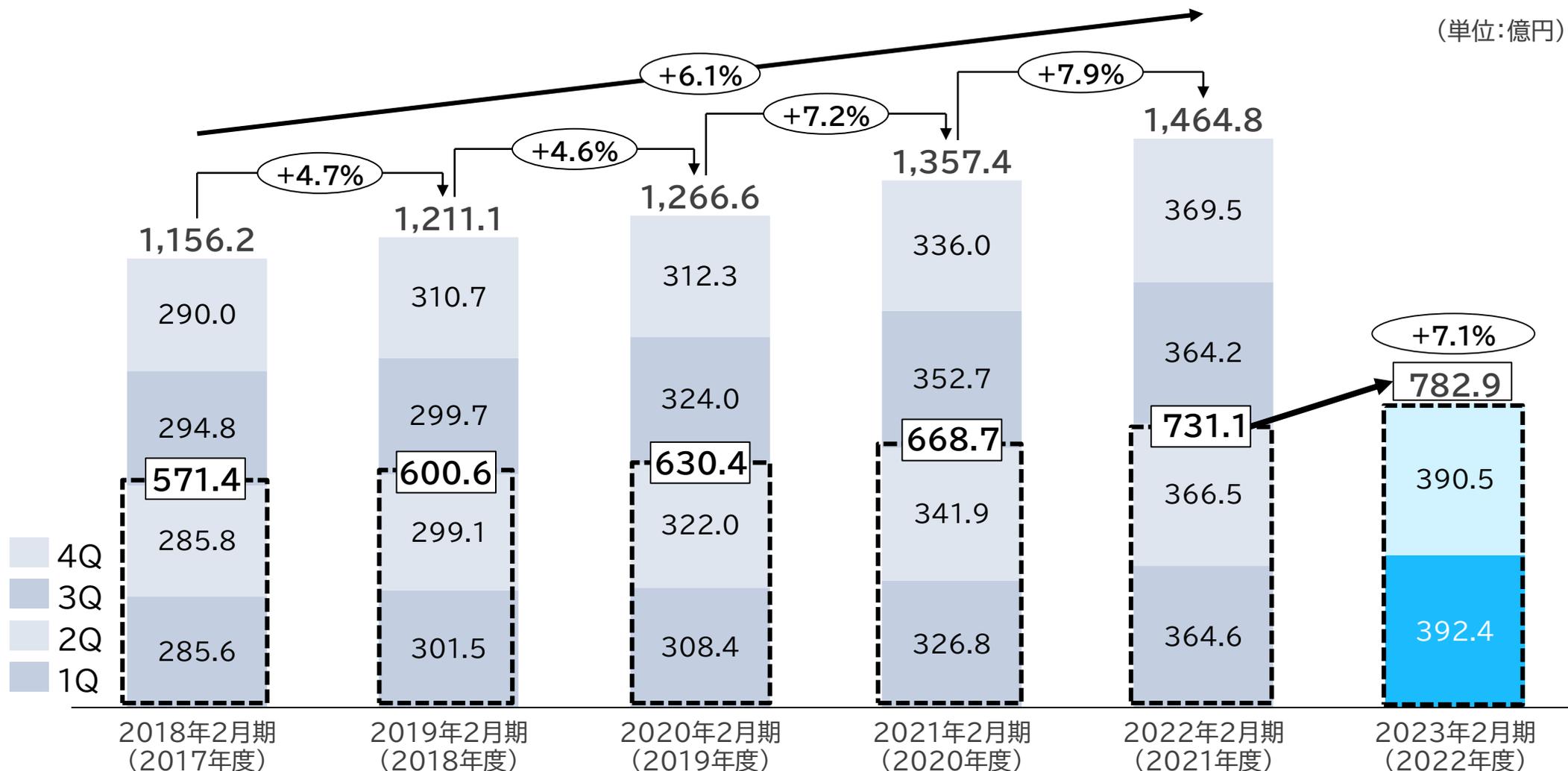


※ ブース数は、当社の国内拠点におけるオペレーション業務を実施する席数で、クライアントオフィスやレンタルオフィス(約15,000席)を除く

# APPENDIX

# 売上収益の推移

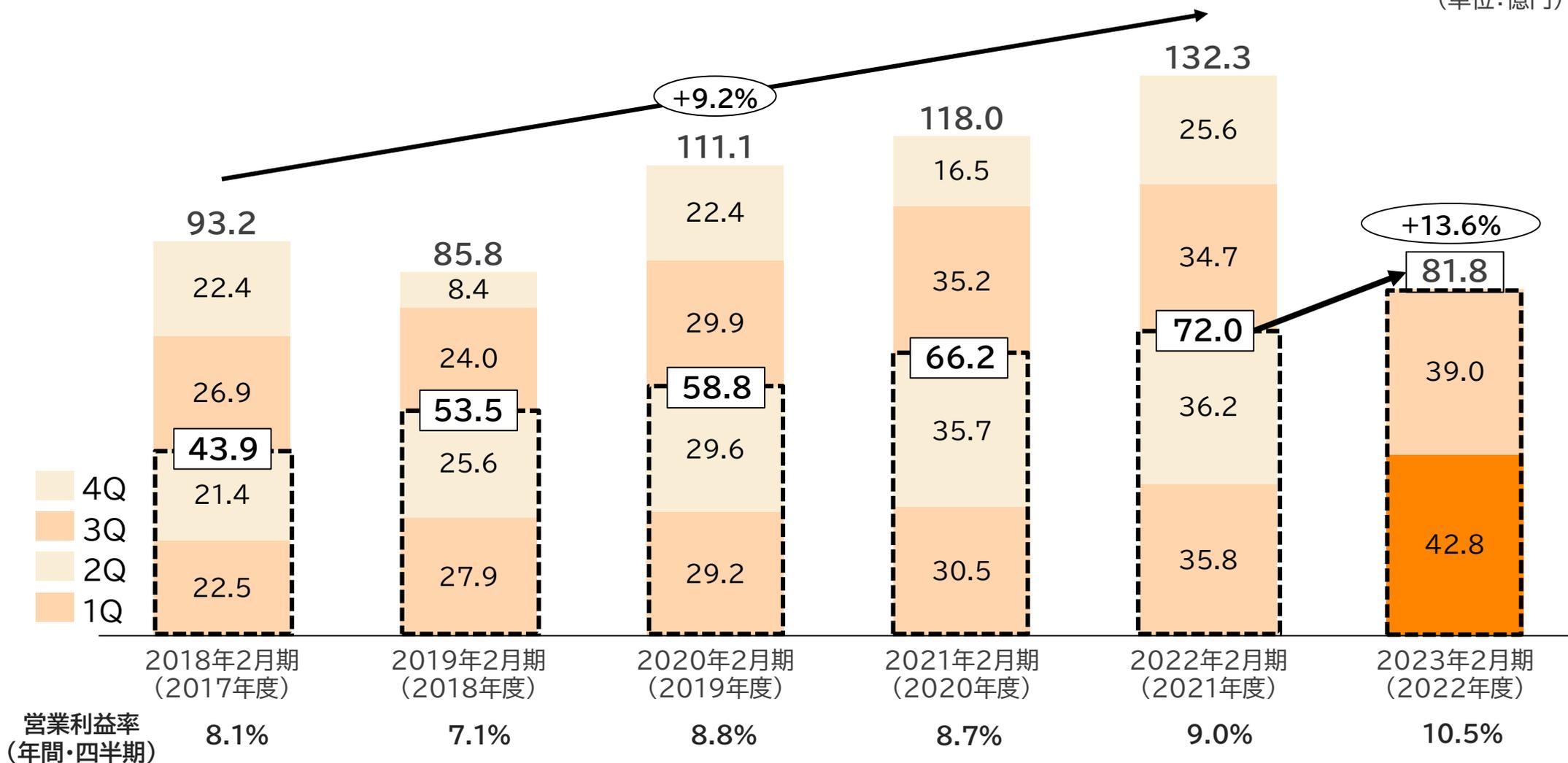
- 当第2四半期の売上収益782.9億円は、上場(2016年2月期)以降、四半期ベースで最高値
- 前年同期比では+7.1%と、2017年度~2021年度の年間平均成長率+6.1%を上回る増加



# 営業利益の推移

- 当第2四半期の営業利益81.8億円は、売上収益と同様に上場(2016年2月期)以降、四半期ベースで最高値
- 前年同期比では+13.6%と、2017年度~2021年度の年間平均の成長率+9.2%を大きく上回る増加

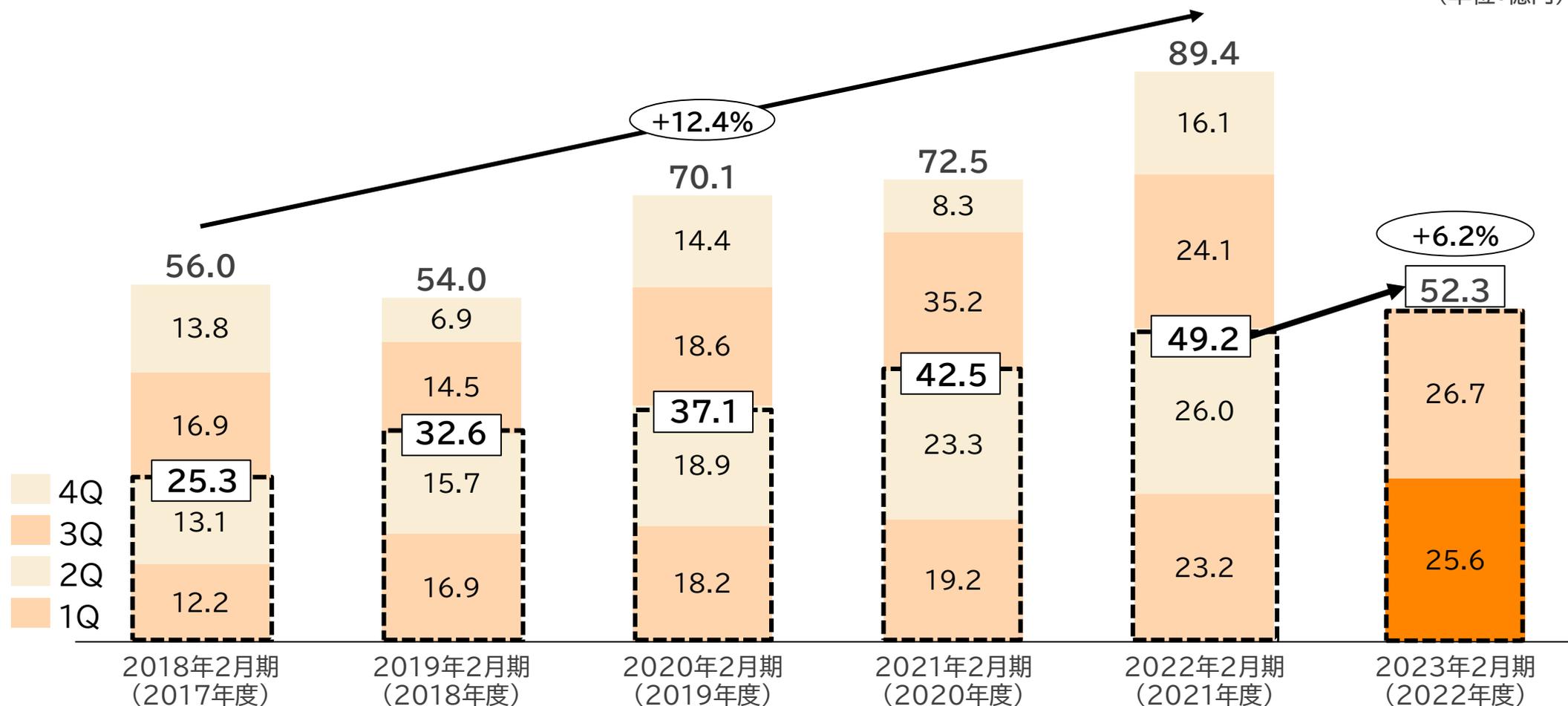
(単位:億円)



# 四半期利益の推移

- 当第2四半期の四半期利益52.3億円も売上収益、営業利益と同様に上場(2016年2月期)以降、四半期ベースで最高値
- 前年同期比では+6.2%の増加

(単位:億円)



※ 四半期利益=親会社の所有者に帰属する四半期利益

## ご注意

本説明および参考資料の内容には、将来の当社業績に関する見通しが含まれていますが、これらは現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづくものであり、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、これら業績に関する見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

